

電子情報工学専攻

人材養成および教育研究上の目的

電子情報工学専攻においては、エレクトロニクス、通信及び情報を中心に進められている技術革新を担うことができる高度な知識と研究能力を有する人材を育成することを目的とする。

三つのポリシー

❖ アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

電子情報工学専攻博士課程前期では、電子情報工学関連企業等で研究開発やプロセス開発に携わる目標を持っている人、あるいは教育・研究機関等での研究者を志向する人を対象とする教育を目指す。電子情報工学は広い知識に基づいた応用力が必要であるという観点に立って、電子工学、情報工学の基礎学力を有する人の中から、意欲を有する人を求めている。また、成績抜群の学生に対しては、3年次修了時に「飛び級」で入試を受験する資格を与えている。

❖ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

博士課程前期では、修士論文研究を行う専門分野（専修）と指導教員を学生が自ら選択する。学生は自己の専修に属する教員から専門分野の先端的な工学知識や高度な専門技術を修得しながら、修士論文卒業研究を完成させる。1年次と2年次に配置された特別研究ⅠとⅡでは、指導教員が個別で研究指導を行い、電子情報分野における工学的デザイン能力、問題解決能力およびプレゼンテーション能力の育成を行う。

❖ ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

博士課程前期では、技術者や研究者としてのキャリアの出発点に立つことができるだけの基礎知識、専門技術、識見を獲得しているか否かを、単位取得状況と修士論文の内容および公聴会における口頭発表、質疑応答によって判断し、学位規程第9条に基づき合格者には学位を授与する。

